

学校だより



令和4年6月1日
 尼崎市立園田小学校
 校長 永所 孝章

ともに学ぶ — 「ああでもない こうでもない」の時間が大切！ —

3年ぶりに宿泊の自然学校を実施することができました。宿泊日数は減ったものの親元を離れ、それぞれが自分で考え、友だちと協力しながら取り組んだ学校行事。子どもたちの自律を促すためにもとても重要だと改めて感じました。

5年生の子どもたちには出発時に2つのことを伝えました。

1つ目は、目標に「自分で考え、自分で行動する。」とありました。では、このために必要なことは何でしょうか。それは、【まわりをよく観ること】です。よく観ていれば気づきが生れます。気づきが考えにつながり、行動につながります。



2つ目は、【友だちのよさ・自然のよさ・自分のよさ・家族のよさ】に気づいてほしいということです。家族のもとを離れ、仲間と寝食をともにすることで、様々なことを考え行動します。普段ならお家の人やってくれていたことも、自分のことはすべて自分でやらなければいけません。その中で困りごとがあれば友だちが助けてくれることもあるでしょう。また、そんな時家族のありがたさを感じることができます。

「教科書に書いてあることだけではわからない 大切なものがきっとここにあるさ」というビギンの歌詞にあるように、子どもたちそれぞれが自然学校で何かを掴んでくれたのではないかと思います。

今求められている力として、「学びに向かう姿勢・人間性等」があります。今回のプログラムの中に、まさにこの力を磨くものがありました。それは【基地づくり】です。子どもたちは事前学習でロープワークを学んでいました。本番は林の中に入り、自然に生えている木の場所や形を考えて、グループで「ああでもない こうでもない こうしよう」と協力して基地を作りあげていきます。大人の指示で動くのではなく、誰かがイニシアチブを取りながら、仲間と悩みながら最後まで取り組んでいました。このように子どもたち自身がじっくりと考えながら進めることのできる時間は非常に大切だと痛感しました。出来上がった基地はグループによって様々で、とても面白いものでした。

これからの時代はその場面・その時に合わせて、その都度最善解を考えて行動する力が求められています。子どもたちには基礎学力を身につけさせると同時に、想像力や判断力・表現力を養う機会が必要です。家庭や地域においてもそのような機会を増やして行って下さい。

— 思いっきり走る子どもたち（3年・4年・2年） —

先日のオープンスクールには、たくさんの保護者の方に子どもたちの頑張る姿を見ていただくことができ、本当にうれしく思います。ありがとうございます。特に3つの学年においては、リレー大会を見ていただきました。どの学年もバトンをつなごうと必死になって走っている姿に感動しました。また、その姿を応援する仲間の声援。「がんばれー。いけー。」やっぱり



これ。こういう時間が自己肯定感や他者理解につながるんだなと改めて感じました。

ある保護者の方から「開放感のある外で子どもたちの思いっきり走っている姿はやっぱりいいですね。」とお声掛けいただき、嬉しくなりました。

5年・6年・1年の体育参観は6月9日（木）です。お楽しみに！

— 創立150周年記念 人文字航空写真撮影 —

全校生が力を合わせ、人文字をつくりました。デザインは図工の小堀先生です。学年ごとに自分たちの持ち場で色画用紙を持って完成させました。飛行機からの写真が届きましたが、園田の子どもたちがしっかりと一つになりました。

※ 西校舎4階のベランダから撮影しました。⇒



— 昭和17年の学校周辺の航空写真 —



昭和17年（1942年）に撮影された学校周辺の航空写真です。終戦前の貴重な写真です。

（歴史博物館 辻川さん提供）

現在と比較すると田畑が多く残っていることがわかります。

今回撮影した航空写真も今後拡大して学校に掲示したいと思います。

園田小学校は

どこでしょう？